

## FCT 第21回メディア・リテラシー研修セミナー報告

FCT では毎年恒例となっているメディア・リテラシー研修セミナーを、8月18日（土）～8月19日（日）に大阪教育大学天王寺キャンパスで開催した。

参加者は関西各地および、青森県、千葉県、東京都、神奈川県などから18人が参加し、所属は大学生・大学院生を中心に、教員、NGO・NPO関係者などである。年齢も10代から70代までと幅の広い参加状況で、多様な参加者層ならではの豊かな学びの場を築くことができた。

### ● プログラムの概要～1日目

セッション1（S1）「メディア・リテラシーを学ぶ」ではこのセミナー全体のテキストになっている『最新 Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』をベースに、メディア・リテラシーとは何か、およびその学び方についての解説をおこなった。

S2「ニュースはどのように構成されているか」では7月6日「オウム真理教元幹部死刑執行」のニュース報道を『ニュース ZERO』（日本テレビ系）をテキストにして映像言語をもとに分析を行った。オウム真理教事件は日本のメディア史上、ジャーナリズムのあり方について問われた大きな事件である。しかし、若い参加者にとって、オウム事件は生まれる以前の出来事であるので、オウム真理教事件と松本死刑囚をめぐる動きを資料をもとに説明した後に、メディア分析を行い、その後、ワークショップ形式で、グループでメディアがどのように構成されているか意見を交わした。分析では、テキストに取り上げられていない事項として、誤認逮捕された河野氏の情報や、TBSのテープ問題などにメディアの責任についての指摘があった。

S3「ニュース報道における『現実』の構成」は、S2に引き続き「オウム真理教元幹部死刑執行」のニュース報道を『報道ステーション』（テレビ朝日系）をテキストに加え、比較分析をする。その際、メディアにより「現実」がどのように構成されているかを、キャスターや登場する専門家のコメントなども視野に入れて読み解いている。資料として「TBS問題の経緯」などを配布する。

S4「CMで学ぶ映像言語」～オンライン学習システム（VVCweb）を利用して～では、一昨年実施した学習システムの展開として、オンライン学習システムを利用して、各自、映像言語の基礎知識を学ぶ体験を行った。さらに本セッションでは、共通テキストのパナソニック洗濯機CMを、パソコン画面上の映像言語分析シートに打ち込み、それをもとにしてグループディスカッションを行った。

### ● プログラムの概要～2日目

S5「メディア・リテラシーの獲得を評価する」では、セミナー1日目で使用したワークシートを持ち寄り、メディア・リテラシーの分析能力の観点から、自分たちで評価表（ループリック）を作成した。この作業を通し、メディア・

リテラシーの能力を意識化するとともに、達成度について自ら考えるセッションとなった。評価表（ルーブリック）を基点に2日間のセミナー全体を振り返る機会と位置づけられるセッションにもなった。

●2日目はセミナーを午前中に終了し、午後は鈴木みどり研究基金10周年フォーラム「メディア・リテラシー研究と実践のこれからに向けて」を開催する。

ファシリテーター：西村寿子、高橋恭子、田島知之、森本洋介、杉山晶子

記録：新開清子